

UreyukiBox ロードマップ — いま（v1）と これから

※ 「これから」のうち①～③・⑤は公開（2026年8月中旬予定）までの搭載を目標に開発中です。④は Shopify が新 API を公開し次第 最優先で対応、⑥は検討中です。

開発中・開発予定に関するご案内 ④（Shopify の新 API 連携）と⑥（検討中）は、提供時期・内容が変わる可能性があります。ご契約・お申し込みのご判断は、現在提供中の機能にもとづいて行ってください。

v1 いま（ローンチ版）でできること

① Shopifyから読み取り専用で同期（毎朝1回・自動）

② 売れ行き＋安全在庫・季節性を加味した需要予測

③ 発注数量＝発注点－今の在庫－入荷予定 を自動計算

④ 在庫低下をメール／Slack／LINEでお知らせ

⑤ 適格請求書対応の注文書を仕入先ごとに下書き
→ PDF／CSV出力 → 純正注文書画面へCSVインポート可

…翌朝また①へ（毎朝1回、自動でくり返し）

Stocky 移行（4ステップウィザード・Freeプランから可）

Step 1
説明を確認Step 2
認証情報入力Step 3
取込みを待つStep 4
完了を確認

料金プラン（月額・税抜・円建て固定／為替による変動なし）

Free
¥0Starter
¥2,980Pro
¥5,980Business
¥12,800

有料プランは14日無料トライアル

これから（開発中・開発予定）

① 需要予測のさらなる強化（公開までの搭載を目標）

- ・新商品の初回ロット数の提案
- ・たまにしか売れない商品への対応
- ・過去データでの精度検証（バックテスト）

② 見える化・週次ダイジェスト（公開までの搭載を目標）

- ・「欠品まであと何日」「売り逃し金額」の表示
- ・1週間のまとめレポートを自動でお届け

③ 複数拠点の本格対応（公開までの搭載を目標）

- ・倉庫・店舗など拠点ごとの在庫と発注の管理

④ Shopify純正の注文書とAPI直接連携（公開し次第 最優先）

- ・いまはCSVインポートでの連携（v1）
- ・Shopifyが新APIの公開を予告済み。公開し次第 最優先で対応

⑤ 仕入先への注文書メール送信（公開までの搭載を目標）

- ・アプリ内から仕入先へ直接送信（いまは PDF／CSV 出力）
- ※ MOQ・資金繰りカレンダー・在庫分析・BOM は v1 搭載済み

※ ①②③⑤は公開までの搭載を目標に開発中、④は新API公開し次第 最優先で対応です。

v1 (現行・ローンチ版) でできること

毎朝1回の自動サイクルで、発注の「気づく → 決める → 書類にする」までを一気通貫でお手伝いします（仕組みの詳しい図解は「08 仕組み図解」をご覧ください）。

- ・ **毎朝1回・自動**: Shopify から読み取り専用で同期します（商品・注文・在庫・入荷予定。在庫は書き換えません）。
- ・ **売れ行きの集計と需要予測**: 直近30日の販売実績から「1日あたりの販売ペース」を商品ごとに計算し、安全在庫・季節性（お中元・お歳暮・祝日）を加味した需要予測を出します。予測の根拠（補充目標 - 在庫 - 入荷予定）を画面でそのまま確認できます。
- ・ **発注数量の自動計算**: 「発注数量 = 発注点 - 今の在庫 - 入荷予定」。入荷予定を差し引くので二重発注になりません。
- ・ **お知らせ**: 在庫低下をメール/Slack/LINE でお知らせします（メールは Starter 以上、Slack・LINE は Pro 以上）。
- ・ **注文書**: 仕入先ごとに適格請求書対応の注文書を自動で下書きします（8%/10% 税区分・登録番号の印字・単価は手入力>Shopify原価>目安の順）。PDF/CSV で出力でき、Shopify 純正の注文書画面へは CSV インポートで引き渡せます。
- ・ **発注まわりの実務機能 (v1 搭載済み)**: 最低発注数量 (MOQ)・目標サービスレベル (統計的安全在庫)・仕入れ資金繰りカレンダー (Starter 以上) / 在庫分析 (評価額・ABC・デッドストック検知)・セット商品 (BOM) の組立可能数 (Pro 以上) / 拠点別の配送先・在庫分析 (Business)。

Stocky からの移行 (4ステップウィザード・Free プランから可)

1. **Step 1** — 説明を確認する
2. **Step 2** — Stocky の認証情報を入力する
3. **Step 3** — 取り込みの完了を待つ
4. **Step 4** — 完了と取り込み件数を確認する

仕入先・発注書・在庫調整・税区分を、相互の関連を保ったまま自動で取り込みます。当方の原因で移行が完遂できなかった場合は、移行直後の請求月の利用料金を全額返金します（利用規約に明記）。

※ **Stocky を使っていなかったストアには、この移行ステップ自体が不要です。** インストールして在庫を同期するだけで、発注点の設定から注文書の作成までそのまま使い始められます。

料金プラン

プラン	月額（円建て固定・税抜）	想定規模の目安（商品数）
Free	無料	100 商品
Starter	¥2,980	1,000 商品
Pro	¥5,980	10,000 商品
Business	¥12,800	無制限

Free（無料）でも手動の注文書（インボイス対応）・在庫の見える化・Stocky 移行まで使えます。発注数量の自動計算・発注点管理・予測からの自動下書き・毎朝のメール通知は Starter 以上、Slack／LINE 通知は Pro 以上です。

有料プランは 14 日間の無料トライアル付き。料金は日本円の固定額で、Shopify のアプリ内課金として円額のまま請求されます。為替による変動や為替手数料はありません（Shopify App Store の掲載ページ上は、プラットフォームの仕様で USD の目安額が自動表示されます。価格は 2026-07-26 時点）。

これから（開発中・開発予定）の詳細

これからの開発が目指すのは、きれいな予測グラフではなく**「良い発注判断」**です——欠品（売り逃し）と過剰在庫（資金の寝かせすぎ）を同時に減らすこと。以下はそのための項目です。

①～③・⑤は**公開（2026年8月中旬予定）までの搭載を目標に開発を進めています**。④は Shopify が新 API を公開し次第 最優先で対応、⑥は検討中です。
「いま（v1）はどうしているか」とあわせてご覧ください。

#	これからの内容	いま（v1）はどうしているか	状態
①	需要予測のさらなる強化 — 新商品の初回ロット数の提案・たまにしか売れない商品への対応・過去データでの精度検証（バックテスト）。強化後も予測の内訳（根拠）を画面で確認できる形を維持	売れ行きに安全在庫・季節性（お中元・お歳暮・祝日）を加味した需要予測（根拠＝補充目標－在庫－入荷予定）を画面表示	公開までの搭載を目標に開発中
②	「欠品まであと何日」「売り逃し金額」の見える化・週次ダイジェスト	ダッシュボードで在庫状況と発注が必要な商品を確認	公開までの搭載を目標に開発中
③	複数拠点の本格対応（拠点ごとの在庫・発注の管理）	Business プランで注文書の配送先（拠点）の切り替え・拠点別の在庫分析に対応	公開までの搭載を目標に開発中
④	Shopify 純正の注文書との API 直接連携	CSV インポートでの連携（Shopify 純正の注文書画面で取り込み）。 ※Shopify 側の刷新で CSV 取り込み方式は将来変更・終了の可能性があります	Shopify が新 API を公開し次第 最優先で対応 — 「CSV 書き出し」を「API 受け渡し」へ差し替え（需要予測・注文書はそのまま。橋渡しの全体図は資料05）
⑤	仕入先への注文書メール送信（アプリ内から直接送信）	注文書は PDF／CSV で出力（メール送付はストア側で実施）。最低発注数量（MOQ）・棚卸しズレの検知（記録）・仕入れ資金繰りカレンダー・仕入先情報の編集・仕入単価の一括設定・在庫評価額・ABC分析・売れ残り（デッドストック）の検知・セット品（BOM）の組立可能数は v1 に搭載済み	公開までの搭載を目標に開発中
⑥	その他の検討中 — アプリ内の入荷受領・発注書のステータス台帳・手動発注作成のアプリ内対応／バーコード検品・棚卸し（スキャンで受領・実在庫カウント）／会計ソフト連携（freee・マネーフォワード・弥生 等）	入荷受領・ステータス管理・手動作成は Shopify 純正の注文書画面で対応（資料05）	検討中（順序・時期未定）

補足図 — Shopify 純正の注文書との連携（いま／これから）

いま（v1） — CSVインポートでの連携（純正画面での取り込み操作）



これから（新API公開し次第 最優先で対応） — APIでの直接連携



※ API直接連携は Shopify が新 API を公開し次第 最優先で対応します（Shopify 側の公開時期に依存）。

本資料の数値・プランは 2026-07-26 時点です。v1 の仕組みの詳しい図解は「08 仕組み図解」を、比較の根拠と出典（URL・確認日）は「02 比較表」の脚注をご覧ください。